

平成 19 年 11 月 9 日



JASDAQ

各 位

会 社 名 株式会社 ノ ジ マ
代表者名 代表執行役 野島 廣司
(JASDAQ・コード7419)
問合せ先
役職・氏名 取締役兼執行役企画管理部長
庄司 友彦
電話 050-3116-1212

平成 20 年 3 月期業績予想の修正に関するお知らせ

平成20年3月期(平成19年4月1日～平成20年3月31日)の業績予想について、平成19年5月22日付当社「平成19年3月期 決算短信」にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

1. 平成 20 年 3 月期 連結業績予想の修正等

(1) 中間期(平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日)

(単位:百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	中 間 純 利 益
前回予想 (A)	62,000	10	800	600
今回修正 (B)	65,000	▲300	800	▲800
増減額 (B-A)	3,000	▲310	—	▲1,400
増減率 (%)	4.8	—	—	—
前年実績 (参考)	59,430	102	498	252

(2) 修正理由

売上高につきましては、パソコン本体については価格競争による単価の下落により前年割れとなったものの、薄型テレビを中心としたデジタル AV 機器、及び、白物家電・エアコンを中心とした家電製品の売上が第 2 四半期以降大きな伸びをしめたこと、又、子会社の携帯電話販売子会社が好調を維持したことにより 65,000 百万円(当初予想比:3,000 百万円の増加)となる見込みであります。

営業利益につきましては、売上高は予想を上回ったものの、今年 3 月より合併した、新潟の旧(株)真電(以下真電事業部とします。)の不採算部門の処理に時間を要してしまっ

たことによる経費増、又、インターネット通販子会社(株)イーネット・ジャパンと音楽CD、DVD販売子会社の(株)WAVEについてはDVD販売が激しい価格競争に見舞われ、音楽CD販売はダウンロードビジネスに向かう等売上高の未達から相対的に経費増となり、前期に引き続き営業赤字基調から脱却できなかったことから▲300百万円(当初予想比:310百万円の減少)となる見込みであります。

経常利益につきましては、携帯電話販売事業が好調を維持し、第2四半期以降回復したノジマの販売奨励金等が下支えとなり当初予想とおり800百万円となる見込みであります。

中間純利益につきましては、将来の収益の重しとなる過去のM&Aで発生したのれんの再評価を行い、減損を行なうことといたしました。又、ノジマ、連結子会社ともに繰延税金資産の戻し入れ、不採算店舗7店の減損(343百万円)を行い将来の負債を一掃することにより、▲800百万円(当初予想比:1,400百万円の減少)となる見込みであります。

(3) 通期(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	133,000	120	2,000	1,280
今回修正(B)	135,000	▲100	2,400	200
増減額(B-A)	2,000	▲220	400	▲1,080
増減率(%)	1.5	-	20.0	▲84.4
前年実績(参考)	127,774	694	1,633	707

(4) 修正理由

通期の連結業績見通しにつきましては、中間期業績の未達の影響を引き続き受けるものの、第2四半期以降、薄型テレビを中心としたデジタルAV商品や、エアコン等の家電製品の業績が好調なことに加え、携帯電話販売子会社の業績は好調であり、(株)イーネット・ジャパンにつきましてもDVD販売手法の変更から粗利益率の改善が実現し赤字も縮小することが予想されること、さらに減損を行なったのれんの償却負担も減少することから、売上高135,000百万円(当初予想比:2,000百万円の増加)、営業利益▲100百万円(当初予想比:220百万円の減少)、経常利益2,400百万円(当初予想比:400百万円の増加)、当期純利益200百万円(当初予想比:1,080百万円の減少)となる見込みであります。

2. 平成20年3月期 単体業績予想の修正等

(1) 中間期(平成19年4月1日～平成19年9月30日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回予想(A)	48,000	▲580	300	170
今回修正(B)	37,500	▲740	330	▲450
増減額(B-A)	▲10,500	▲160	30	▲620
増減率(%)	▲21.9	-	10.0	-
前年実績(参考)	45,473	▲33	302	122

(2) 修正理由

売上高につきましては、今期（平成 19 年 4 月 1 日）から、携帯電話販売事業を、ノジマ単体から、携帯電話卸売業を行う 100%子会社のソロンに会社分割を行ないました。

当初は、継続的な業績の推移が把握しやすいようノジマ単体にて売上を計上する予定でしたが、実態に見合った会計処理を行うことが重要であると考え、携帯電話販売事業の売上をソロンに移行することにより 37,500 百万円（当初予想比：10,500 百万円の減少）となる見込みであります。

尚、この処理による連結売上高への影響は全くございません。

営業利益につきましては、上記連結業績予想に記載のとおり、今年 3 月より合併した、新潟の真電事業部の不採算部門の処理に時間を要してしまったことによる経費増に加え、中間期末間際に出店した新規出店に伴うオープニングコストの負担により▲740 百万円（当初予想比：160 百万円の減少）となる見込みであります。

経常利益につきましては、第 2 四半期以降回復したノジマの販売奨励金等が下支えとなり当初予想とおり 330 百万円（当初予想比：30 百万円の増加）となる見込みであります。

中間純利益につきましては、上記連結業績予想に記載のとおり、繰延税金資産の戻し入れ、不採算店舗 7 店の減損を行い将来の負債を一掃することにより、▲450 百万円（当初予想比：620 百万円の減少）となる見込みであります。

(3) 通期（平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	100,000	▲850	1,070	820
今回修正 (B)	80,000	▲1,000	1,200	100
増減額 (B-A)	▲20,000	▲150	130	▲720
増減率 (%)	▲20.0	—	12.1	▲87.8
前年実績 (参考)	94,699	49	869	174

(4) 修正理由

通期の単体業績予想につきましては、中間期業績の未達の影響を引き続き受けるものの、連結の業績予想に記載のとおり、第 2 四半期以降、薄型テレビを中心としたデジタル AV 商品や、エアコン等の家電製品の業績の好調に推移していることに加え、真電事業部の不採算部門のスクラップが進むことにより赤字幅縮小も業績に寄与することから、特に負ののれんの償却が残る経常利益は増益に転じ、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益は、それぞれ 80,000 百万円（当初予想比：20,000 百万円の減少）、▲1,000 百万円（当初予想比：150 百万円の減少）、1,200 百万円（当初予想比：130 百万円の増加）、100 百万円（当初予想比：720 百万円の減少）となる見込みであります。

3. ご参考：前期の実績（平成18年4月1日～平成19年3月31日）

（前年連結業績の実績）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
中間期（4/1～9/30）	59,430	102	498	252
通期（4/1～3/31）	127,774	694	1,633	707

（前年単独業績の実績）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
中間期（4/1～9/30）	45,473	▲33	302	122
通期（4/1～3/31）	94,699	49	869	174

以 上